

# 児童図書研究室だより

2010年12月

## 今年度の研修会・講座等について

岡山県立図書館では、児童関係の研修会や講座のために外部から講師を招いています。今年度は、絵本画家の**米本久美子**氏、岡山ストーリーテリング研究会代表の**筒井悦子**氏、大阪国際児童文学館の**土居安子**氏の3人に講演をお願いすることができました。

**米本久美子**氏は、絵本画家として、「はぬけのはなし」「小麦・ふくらんでパン」（どちらも福音館書店）などの作品に携わり、一昨年には、アスラン書房より絵本「アルマジロの晴れ着」を出版されました。その時、絵本を寄贈してくださったのが縁で、「平成22年度県立図書館おはなしボランティア研修会」の講師をお願いすることになりました。講演していただいた6月に、ちょうど「たまごのからとかみねんどでつくろう」を出されたところで、ラフスケッチやダミー（見本）を見せていただきました。本作りは、担当者と何度も打ち合わせをするなど、手間がかかっていること、作家だけでなく編集者の存在も重要だということが、実際にお話を聞いてみてよく分かりました。「絵本は絵と文の総合芸術である。」  
「絵本は、絵と文で何かを伝えるために作られたもので、子どものためだけのものではない。」というお話が印象に残りました。



**筒井悦子**氏は、絵本の読み聞かせやストーリーテリングのボランティアとして、長年活躍されていますが、今回は、「平成22年度図書館職員等研修会」と「平成22年度第5回県立図書館とことん活用講座」で、ストーリーテリングの講演をしていただきました。11月に香川県で、全国公共図書館児童・青少年部門研究集会がありました。その時に、水戸市立中央図書館の坂部豪氏が、子どもたちに本を届ける重要な鍵として、ストーリーテリングを挙げておられました。今後もストーリーテリングに注目していきたいと思えます。

**土居安子**氏は、大阪国際児童文学館の引っ越しや、再開直後の忙しい中、「平成22年度図書館職員等研修会」の講師を引き受けてくださいました。ここ2~3年の児童図書の出版傾向や、注目のよみものの紹介など、熱のこもったお話が聞けました。

詳しくは、県立図書館児童カウンターまでお尋ねください。



## 児童図書研究室展示について

児童図書研究室では、平成23年1月19日までグリム童話について読み比べ展示をしています。

グリム童話とは、19世紀のドイツに生きたグリム兄弟が各地に伝わる童話や民話を収集し、まとめた『子どもと家庭とのメルヒェン集』のことをいいます。彼らが亡くなるまでに話を入れ替えたり、増補加筆したりするなどして第七版まで出版されました。今回の展示では、出版前に知人に送った初稿（1810年）、初版（1812年）、第二版（1819年）、そして最後の第七版（1857年）のものを展示しています。版を重ねるごとに、兄弟がこの童話集にどう手を入れていったのかぜひ読み比べてみていただきたいと思います。

併せてグリム童話のうちお姫さまを主人公としたお話の絵本を展示しています。原作の物語が、絵本ではどのように描かれているのか比較してみてください。

## 平成22年度 美作地区ヨムヨム巡回展示について

10月26日（火）から11月3日（水）まで、新庄村公民館で、美作地区のヨムヨム巡回展示を開催しました。期間中、2010年9月の全点購入児童図書310冊を展示しました。最終日の11月3日は、乳幼児と保護者を対象に、県立図書館司書による「パパとママのための読み聞かせ講座」を行いました。9名の参加があり、親子

（家族）で読み聞かせを楽しんでもらいました。今回は一日こども図書館フェスティバル事業と同時開催ということで、幅広い年齢層の方、また、新庄村以外にお住まいの方にも、県立図書館児童図書研究室についてお知らせできる良い機会となりました。

備中地区のヨムヨム巡回展示は、井原市美星図書館で開催する予定です。



岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山市北区丸の内 2-6-30

tel (086) 224-1288

E-mail: [libnet@libnet.pref.okayama.jp](mailto:libnet@libnet.pref.okayama.jp)